第7回

黒埼町の今昔

町史編さん課

木場下組敬神演芸部(一)

昭和二十一年一月、戦後の混乱の中、郷土芸能を残そうと若者たち起つ。

今回から木場下組敬神演芸部についてご紹介したい。同演芸部は年配のかたならご存知かと思うが、戦後の敗戦の混乱の中で地域芸能の継承を目指して、若者たちが芸を磨き、町内、近隣市町村はもちろん、全国大会などで黒埼の郷土芸能の名を高からしめたものである。当時の若者たちも今や初老を迎えるに至り、ここに記録しておきたい。

木場の棒踊り　黒埼町の代表的郷土芸能。戦国時代、木場城があったころ習い覚えた武道の型を残したものといわれる。

昭和二十一年一月「木場下組敬神演芸部」結成

昭和二十年、敗戦から五か月、年も押しつまった十二月二十四、五日ごろ、木場の若い者たち数名で演芸部を作らないかという話が持ち上がった。たちまち賛同者が続出し部落の先輩（演芸関係者）の指導と協力も得て、一月末、演芸部が結成された。その名を「木場下組敬神演芸部」とつけた。※一月末というのは当時は旧正月（二月が正月）だったので、今でいう年末である。

発足メンバーは会長に荒木留吉、副会長土田惣二郎、(故)丸山又助。以下三十数名であった。練習は昭和二十一年の二月（正月）から始まった。演芸部は、棒踊り、花笠踊りと手踊り、神楽舞などに分かれて、農作業場や座敷を借りそれぞれのけいこの場とした。

正月休みも青年休みも返上して棒踊りのけいこ

木場の棒踊りは現在町の無形文化財にも指定され、黒埼町の代表的郷土芸能として有名である。この踊りの由来は一説によれば、木場城の廃城後（四百年ほど前）、農民たちがそれまで身を守るために習い覚えた武道の型（杖術）を、後世に残そうと踊りに託したものといわれ、その後種々改良されて代々若者たちに受け継がれてきた。

この踊りの歌詞は次のような源平合戦や忠臣蔵を歌ったものがある。

一、四国西国屋島が浦に源氏、平家のホンニ戦よ
一、経の築島誰が築き初めた大政大臣、ホンニ清盛公よ
一、昇り鉢巻あやいの襷四十七士に、ホンニ、さも似たり

歌詩に比べてはやしや踊りは誠に勇壮なものである。四人の踊り手がそれぞれ五尺のかしの棒を持って、六尺四方、（畳二枚）の広さの中で踊り、しかも動作が非常に早いため呼吸が合わないと相手の棒にたたかれるという厳しい踊りだ。

演芸部の棒踊りの踊り手は小林平馬、富所賢一、渡辺武雄、鶴巻義雄ら。師匠は(故)村井利吉である。けいこは正月（二月）から春の農作業が始まるまでの二ヵ月半、夜は十一時ごろまで、昼も正月休みや青年休みを返上して続いた。農繁期になっても続けられ、けいこ場が橋の上や庭先、ときには火葬場でした。「まだ若かったから」と小林さん、吉井さんは言っている。

花笠踊り、手踊り

花笠踊り、手踊りは師匠の土田惣二郎の座敷でけいこした。この踊りの由来は江戸時代文化文政のころ（百八十年ほど前）村の若い衆が寄り集まって神社仏閣に寄進しょうと、そのころ梅の木（近江国六地蔵村＝滋賀県葉山村）からきた仙人と称される老人から獅子舞などと一緒に習ったのが始まりという。

花笠踊りは女のじゅばんの上に紫の紋付きを片はだ脱いで、赤と黄のふくきを肩から下げた四人の女装の踊り手が、桜と梅の花をあしらった笠を両手に持って、笛や太鼓にあわせて笠を回しながら踊る。

手踊りは同じ衣装で、笠を持たずに手や体のしなを見せて桶るものである。この二つの踊りの歌は木場に昔から伝わるお駒節かくどき節が歌われる。

踊り手は村井利幸、鷲尾正平、外川藤英、佐藤良平、桝岡仁三郎らだった。師匠は土田のほか五十嵐文司、大谷定吉ら。けいこは数年続き、惣二郎と藤蔵の畳は真ん中が一間半位円を描くように黒くささくれ立ったという。

神聖な「神楽舞」

神楽舞は古くから五穀豊作の祈禱と悪魔払いに舞われてきためでたい踊りでよく家の建てまえや結婚式、祝い事で演じられた。神楽の頭の役は外河虎蔵尾（しっぽ持ち）は(故)土田五郎が、師匠の加藤初蔵の座敷でけいこをした。

演芸部では神楽舞の獅子頭を「神楽」と呼んで神聖なものとして扱っていたため、けいこが十日過ぎても神楽を持てず、かわりに一什枡に大きな風呂敷を付けたものを使った。そのときのことを外河さんは「いつになったら本物を使わせるのか、いやになった」と話している。

一什枡のけいこが十二、三日続くとやっと本物が使えた。また、音もそれまでの師匠の「チッチッチョロレー」という笛まねに変わって本物の笛太鼓になった。執筆・宮田栄門

ニュース足報

毎月15日ごろまでにご連絡を

善意の窓――♥

白井初雄さん（上山田第二）が車イスを一台寄贈されました。

長い間お疲れ様でした――♥

民生委員を六年二ヵ月務められた武田利秋さん（木場下組）が一月三十一日付けで辞任されました。

サケの稚魚五十万尾放流

信濃川漁協では三月十二日(木)、サケの稚魚五十万尾を中の口川に交通公園（大野）から放流しました。当日は青木町長、佐藤議長、漁協組合員のほか、大野小、黒鳥小、板井小の児童も参加し「帰ってこいよ」と見送っていました。

サケが帰ってくるのは三、四年後。「大きくなったのをつかまえたい」と子供たち。

切花組合チューリップ展示

切花組合（若林茂組合長）は三月十八日(水)から二十五日(水)まで役場玄関ホールでチューリップの切花展示会を開きました。新品種のゆり咲き、八重咲、パーロント咲きなどあわせて三十三点が飾られ、来庁者に春のお訪れを告げていました。賞は――町長賞＝阿部耕治、農協組合長賞＝加藤喜代一、生花賞＝伊藤徹。

スポーツ大会結果

◆第6回公民館対抗町民卓球大会（2月22日、総合体育館）①山田A②金巻A③立仏A敢闘賞黒鳥、参加数…13チーム**◆町民親善バレーボール大会**（3月15日、総合体育館）男子（第8回）①山田②木場③柳作敢闘賞北青クラブ　女子（第10回）①山田②大野B③木場③大野分館

◆第3回分水町近郷体操競技大会（3月15日、分水町総合体育館）黒埼体操クラブ出場中学生男子　個人総合①小柳一也②加藤慎人④品田智数⑤佐野友治⑦間加津昭⑨高橋俊也⑬村井道幸⑰涌井健一※品田以下小学生　種目別（床、あん馬、とび箱、鉄棒でも上位入賞。中学生女子　個人総合⑨弦巻直美

＊募集しています

初心者テニス教室

テニスを始めたいかたならどなたでも。4月1日～9月31日の毎週金曜、日曜日、黒埼中学校第2体育館　?庭球協会小林まで☎377-4605

黒埼町剣道連盟

小学生3年以上の男女。小学生用防具あり。

会場	総合体育館	山田小
時間	木曜夜と日曜午前	日曜午前

?石川弘☎377-2032

力作そろう。公民館作品展

公民館作品展が三月二十日(金)から二十二日(日)まで北部地区公民館で開かれました。公民館の各種講座や教室などで一年間学んだことを受講生が発表するもので、会場には版画、書、水墨画、創作人形、籐細工、短歌、俳句、絵画など力作が飾られていました。「四月からわたしも受講しようかしら」と来館者の声。

善久保育所でもちつき

若手農業後継者で作っているグリーンサークル（駒沢正次会長）では三月十四日(土)、善久保育所でもちつき大会をしました。これは、地域とのコミュニケーション深めようと今年から計画したもので、サークル員たちは園児たちのかけ声をうけてつき、モチはあんこやきなこで食べました。今後も山田、立仏、寺地の保育所で予定しています。

小学生404人・中学生366人が巣立ち

卒業式

小学校は三月二十三日(月)、中学校は十四日(土)、保育所は二十七日卒業式が。

小・中学校卒業生

	男子	女子	合計
黒鳥小	11	10	21
木場小	11	17	28
大野小	100	84	184
板井小	8	11	19
山田小	47	41	88
立仏小	29	35	64
合　計	206	198	404
黒埼中	195	171	366

保育所

	男子	女子	合計
木　場	16	9	25
大　野	30	30	60
板　井	8	11	19
興　野	20	20	40
善　久	9	13	22
山　田	27	37	64
立　仏	19	20	39
寺　地	13	18	31
黒鳥(私)	6	7	13
合　計	148	165	313